



はーもにー

TCS 運営委員会 2019
No.6 2019.12.12

モツレクを聴きに行く ♪&お食事会 多田麻紀

11月16日(土)秋晴れの良い天気恵まれました。14:15開場を告げるグロッケンシュピールの鐘の音を聞きながら、国立音楽大学講堂大ホールへ。14:30からオルガン・プレ・コンサートそして、15:00から本プログラム。

女声合唱とピアノのための「赤い鳥小鳥」

信長貴富 編曲、北原白秋 作詞

合唱：演奏・創作学科声楽専修1年女声

混声合唱とピアノのための組曲「夢の意味」

上田真樹 作曲、林望 作詞

合唱：演奏・創作学科声楽専修2年

演奏・創作学科声楽専修1年男声

まず、若々しい女声合唱の美しさ。そのあと、混声合唱の厚み、両プログラムの伴奏の繊細なピアノの音色にうっとりさせられました。

休憩を挟んで、今回の一番の目的である「モーツァルト、レクイエム」テンポの速さに、学生ならではの勢いを感じました。

私は久しぶりに母校大学講堂大ホールでの演奏会でしたが、改めて音響のいいホールだと実感。学生時代にこのホールにて合唱で歌えたことに感謝です。

演奏会後、玉川上水駅に隣接するレストラン「OKAMOTO」でお食事会、こちらは10名の参加となりました。新しく入団された岸部さんの歓迎会も兼ねました。17:30~約2時間。演奏会の感想を交えながら楽しい時間となり、岸部さんのお話もたくさんお聞きできました

音大生のコース

石崎敦子

玉川上水駅から細い裏道を7分ほど歩いていくと赤レンガ造りの立派な建物、国立音大の講堂があります。奥の方から長い行列ができていました。入り口で団長の鈴木さんに列に並ぶよう案内されたので、後ろに付いて見渡すと、所々にTCSのメンバーの顔が見えます。大きな鐘の音に促され入場したホールも立派でゆったりとしていて、舞台には大きなパイプオルガンがあります。TCSの皆さんと集まって席につき、パイプオルガンのプレコンサートから演奏会が始まりました。

第一部は、若い日本の作曲家二人の作品で、一曲目は1年生女声80名ほどの3部、二曲目は1,2年生混声100名ほどの8部のコーラスです。指揮者も若い方でした。

一曲目は、馴染みのある“この道”“砂山”などの曲の編曲で楽しく聴きました。若い音大の学生さん達は声量もあり、丁寧に演奏していて心地良かったです。

二曲目は、初めて聴く曲でもあり、合唱コンクールを聴いているような気分でした。

第二部は、いよいよお目当てのモーツァルトのレクイエムです。第一部はピアノ伴奏のみでしたが、第二部はオーケストラ付きです。さすが音大です。80数名のコーラスメンバーは、3年生が中心でした。

その迫力ある演奏に、若い音大生たちの音楽に対する情熱を感じました。

来年、私達は、20数名で同じ曲に挑みます。人数も若さありません。あるのは、豊かな人

生経験と音楽好き、そして富沢先生の熱いご指導です。どんな演奏になるのかな〜と楽しみに思いながら帰途に付きました。

国立音大の演奏を聴いて

栗田おとの

国立音楽大学の演奏会は、初めて声楽専修の学生の合唱を聴くので、とても楽しみにしていました。

第一ステージは、一年生約 70 名による女声合唱でした。一年生とは言え、声楽を専修されているだけあって、出だしのピッチやタイミングがピッタリと合い、楽譜が見えてくるような、とてもクリアな演奏でした。

第二ステージは混声の組曲、まずは男声合唱から始まりました。女声とは違った響きにうっとりしました。そして、これに女声が加わり混声合唱になると、両方の良さが足されて、奥行きが感じられました。女声・男声・混声の違いや、それぞれの魅力を比較できたステージでした。

第三ステージは、3年生約 90 名男女比 1 対 3 のモツレクです。学生によるオーケストラも入りました。歌い出し直前のトロンボーンの音が外れ、どうなるのかと思ったのは一瞬で、歌が始まると早いテンポに負けず、歯切れの良い合唱が、澁みなく続きました。

安定したレベルの大人数の集団、若さと日々の練習に裏付けられた、学生ならではの素晴らしい演奏でした。音楽に関わるさまざまなことを学び、日々訓練している学生達が、眩しく羨ましく見えました。

学生達と同じような演奏は出来ませんが、人生のベテラン TCS なりの、納得のいく演奏がしたいですね。あと数ヶ月頑張りましょう。

国立音楽大学生のモーツァルト レクイエムを聴く

亀田卓一

秋晴れの午後、国立音楽大学生のモーツァルトレクイエムの演奏会を聴きに行った。

たしか 16~17 年前に一度この大学で T C

S の練習を行った記憶があるが、玉川上水駅の周辺はまだ畑や空き地が多かった。今は住宅やいろいろな建物がびっしりと建っていて全く雰囲気異なる街となっていた。

さて演奏会は講堂の大ホールで行われたが、1000 席くらいの席が 9 割くらい埋まっていた。このホールの正面には立派なパイプオルガンがあり、まずパイプオルガンが演奏され、そのあと信長貴富さんと上田真樹さんの作曲による 2 ステージが演奏された。信長さんと上田さんも客席にお見えのようであった。

モーツァルトレクイエムは女声 75 名くらい男声 30 名くらいの人数で、オーケストラと一緒に演奏された。学生は練習時間も多いのですが、この長い曲が暗譜で歌われたのはすごいなと思った。声にもつやがあり、若い人達は元気が良く聴いて心地良かった。上手さはあまりわからないが、私は耳が悪いせいか歌詞はあまりはっきりと聞き取れなかった。ソリストも若い人達であったが、この人達は楽譜を持っており、若い人の割にはやや声量が少ないように感じた。

この長い曲は歌う方は夢中で歌っているの、それほど長さを感じないが、客席で聴くととても長い曲を実感する。歌ったことのない人はやはり聴くのがかなりしんどいだろうと思われた。

素晴らしい会場で島田さんほか TCS の皆さんと一緒に聴くことができて良かった。この日の企画をしてくださった委員の方に感謝したい。

運営委員会からのお知らせ

■ 年末年始の練習

今年は 12 月 26 日まで、来年は 1 月 9 日からの練習となります。

■ 文京区合唱のつどい、来期定演の演目

次号でご案内します。

編集後記

皆さま、今年も残りわずかとなりましたが風邪に気を付けて頑張りましょう♪ (み)

連絡先：鈴木美樹 miki.561739@gmail.com